

にのみや学園通信

R5.7.3
第3号

子供たちの未来を見据えて

1873年(明治6年)に、日本最初の近代的学校制度を定めた教育法令、学制が決められ、国民に教育の機会が開かれました。150年前のことです。西洋から入ってきた当時の授業スタイルは、先生が黒板を背にして子供たちの前に立ち、一斉に教え込むものでした。このスタイルは100年以上続き、正解を覚える、正解の導き方を身に付けるものが中心でした。

これらの力が必要であることは言うまでもありませんが、授業スタイルが劇的に変化してきているのです。今回の学習指導要領に込められた願いは次の通りです。

「学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい。」



にのみや学園は共通性と一貫性をもって子供を育てます

この願いのもと、二宮町の小中一貫教育の目指す子供像は次の通りです。

- ・自分の心と身体にまっすぐ向き合い、自分の良さを発揮し、自己実現できる子ども
- ・多様な価値観を大切にし、互いの良さを引き出しあい、主体的に他者と協働できる子ども
- ・二宮に愛着と誇りを持ち、社会に貢献できる子ども <「二宮町小中一貫教育グランドデザイン」より>

これらを具現化するために授業改善を図っています。主体的・対話的で深い学びによって何ができるようになるのか。子供たちに必要な力を三つの柱として整理しました。

- ① 学んだことを人生や社会に生かそうとする“学びに向かう力、人間性など”。
- ② 実際の社会や生活で生きて働く“知識及び技能”。
- ③ 未来の状況にも対応できる“思考力、判断力、表現力など”。

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、“三つの力をバランスよく”育みます。

主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の視点から

「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」も重視した授業を取り入れていきます。



小中一貫ワーキンググループ

にのみや学園プロジェクトの一つにワーキンググループがあります。これは、14の教科等に対して小学校と中学校の先生がグループをつくり、9年間のカリキュラムや指導方法等について話し合っています。

- | | | | | | | |
|-----|------------|--------|-------------|-------|---------|--------|
| ①国語 | ②社会・生活 | ③算数・数学 | ④理科・生活 | ⑤音楽 | ⑥図工・美術 | ⑦体育・保健 |
| ⑧家庭 | ⑨外国語活動・外国語 | ⑩道徳 | ⑪プログラミング・技術 | ⑫特別支援 | ⑬総合的な学習 | ⑭特別活動 |

- <例> ⑦体育・保健 … 「バレーボール」1年生から技能を積み上げ、バレーボールらしいゲームを楽しむ。
⑭特別活動 … 小学生と中学生との交流や小学校間、中学校間の取組を検討中。

これまで二宮町小中一貫教育通信としてHPにて掲載してきましたが、にのみや学園開校に伴い、「にのみや学園通信」として名称を改め発信していきます。

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP <https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

